

教員紹介 **現場経験豊富な言語聴覚士・医師がきめ細かく指導します。**

指導を担当するのは豊富な臨床経験を持つ医師・言語聴覚士による教員陣です。1学年30名の定員に対し、言語聴覚の各領域をカバーする専任教員が手厚くサポート。教員が持つ人脈を活かしてボランティアや臨床体験・見学などの機会も豊富に設けます。

えんげ **発声発語・嚥下障害学**



声、共鳴、構音、流暢性の異常は、社会生活に多大な影響を与えます。飲み込みの問題は生命を脅かすこともあります。発声発語障害と嚥下障害について、基本的内容と言語聴覚士・医師の取り組みを学びます。



久 育男教授
博士(医学)
学部長

日本頭頸部外科学会理事、日本嚥下医学会理事、日本気管食道学会理事、日本耳鼻咽喉科学会理事などを歴任。担当科目「形成外科学」「耳鼻咽喉科学」「音声障害学」など。



荻安 誠教授
博士(学術・音声言語病理学)

担当科目「音声学」「構音障害学」「嚥下障害学」「吃音学」など。

聴覚障害・言語発達障害



ことばの発達には、聴こえと言語環境、脳の成熟が欠かせません。聴こえの仕組みと言語学習の基礎を知り、聴覚障害と言語発達障害の基礎と臨床を講義と実習で学びます。



松平 登志正教授
博士(医学・聴覚学)

担当科目「聴覚心理学」「聴覚検査学」「補聴器・人工内耳」など。



橋本 かほる講師
博士(保健学・聴覚障害学)

担当科目「言語発達学」「言語発達障害学」「小児聴覚障害学」など。



弓削 明子助教
修士(医科学)

担当科目「言語発達障害学」「重複障害学」「構音障害学」など。

高次脳機能障害



失語症と高次脳機能障害は社会生活を脅かすものです。脳機能とことばや行動・認知の科学を踏まえ、脳機能障害の現症を理解し、臨床での評価と鑑別診断、リハビリテーションの方針と実施まで学びます。



吉村 貴子准教授
博士(学術・認知神経科学)

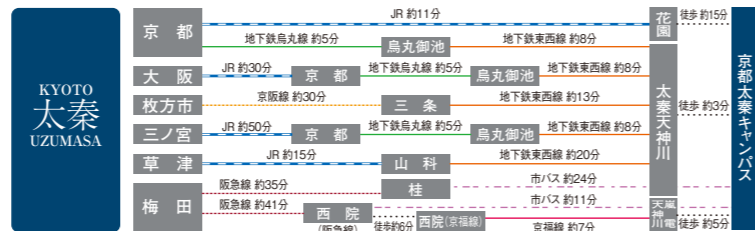
担当科目「失語・高次脳機能障害学」「チーム医療論」など。



外山 稔講師
修士(医科学)

担当科目「失語・高次脳機能障害学」「言語聴覚療法学総合演習」など。

言語聴覚学科の授業は2015年開設の京都太秦キャンパスで開講されます。



すべては学生のために。
京都学園大学
KYOTO GAKUEN UNIVERSITY

http://www.kyotogakuen.ac.jp/
【入試に関するお問い合わせ先】入学センター
TEL 0771-29-2222
E-mail nyushi@kyotogakuen.ac.jp

京都亀岡キャンパス

健康医療学部 健康スポーツ学科
人文学部 心理学科
バイオ環境学部 食農学科
バイオ環境デザイン学科
バイオサイエンス学科

〒621-8555 京都府亀岡市曾我部町南条大谷1-1
TEL 0771-22-2001 (代表)

京都太秦キャンパス

経済経営学部 経済学科
経営学科
健康医療学部 看護学科
言語聴覚学科
人文学部 歴史文化学科

〒615-8577 京都市右京区山ノ内五反田町18番地
TEL 075-406-7000 (代表)



ことばときこえの専門家になる。

国家資格の言語聴覚士は圧倒的な人材不足 高い就職率
最新施設を備えたキャンパスへ 京都が学びの舞台
基礎から専門、臨床まで 問題解決力を養成

健康医療学部 **言語聴覚学科**

京都太秦
キャンパス

私たちが育てたい言語聴覚士

まるでパズルのような個別の難問に挑む。 言語聴覚士には、柔軟な知性が必要です。

言語聴覚士の社会的ニーズが高まっている今、本当に求められる人材をどのように育てていくべきなのか。京都学園大学が育成をめざす言語聴覚士像と本学科の教育について、苅安教授が語ります。



苅安 誠教授

夜勤や残業も少ない勤務スタイル。 女性も働きやすい仕事。

言語聴覚士は、ことばときこえ、飲み込みに関わる治療の専門家であり、1997年に国家資格化された比較的新しい資格です。日本には約650万人の患者さんがいるといわれ、高齢化の進展に伴って患者数は今後さらに増加する傾向にあります。しかし、2015年3月時点で言語聴覚士の資格を持つ人は全国に約2万5,500人。人材不足が深刻な問題になっています。病院などの医療機関や福祉施設など、今後ますます活躍の場が広がることが予想され、有資格者は引く手あまたの状態です。また、夜勤や残業が少ない勤務スタイルでもあり、女性にとっても働きやすい職業といえるでしょう。言語聴覚士は現代の福祉社会において非常に注目されている仕事なのです。



演習室

めざすは国家試験合格率100%。 4年間をかけて、じっくり成長する。

そのためにカリキュラムは基礎から専門、実践まで段階的に学んでいけるものとししました。1年次に「スタートアップゼミ」を設け、情報収集とレポート作成の手法など研究や臨床の報告に必要な知識とスキルをしっかりと身につけられるように指導。また、専門的な講義は演習と一体化されたスタイルとなっており、講義で学んだことを連続して開講される演習で確認し、知識とスキルの定着をめざします。臨床実習は見学・評価・総合の3ステップで実施。経験を積んで段階的に臨床スキルを修得できる環境です。さらに、国家試験合格に向けたサポートも非常に手厚い体制を整えています。4年次には専門科目を中心に復習をしながら国家試験の問題に取り組む演習を用意し、合格するために必要な力の修得に取り組みます。

めざすのは国家試験合格率100%です。目標に向かってしっかりと学べば、必ず言語聴覚士になれる。そういうベストの環境を用意しました。

語聴覚士の仕事は、複雑な「パズル」を解くことに似ています。しかし、どんなに難解な問題でも、さまざまな「解き方」を知っていれば、解決への道筋を見つめることができるでしょう。問題の解決へ多彩にアプローチできる方法を身につけ、臨床の現場で柔軟な対応力を発揮できる言語聴覚士を私たちは育てたいと考えています。

現役の言語聴覚士のためのセミナーが 学生の臨床実習の充実に。

言語聴覚の領域に関する医療技術は日進月歩の勢いで進化を続けています。したがって、言語聴覚士として働くようになってからも、勉学を続けて知識とスキルを今日の技術水準のもとにアップデートしていかなければなりません。京都太秦キャンパス内で開講する「臨床スキルアップセミナー」は、現役の言語聴覚士を対象としたもの。このセミナーでは、基礎的なスキルの確認から、最新の技術の紹介まで、本学科の教員のみならず著名な言語聴覚士を全国から招いてレクチャーします。まさに、学び続ける言語聴覚士を支援するものです。

学生たちの臨床実習にご協力いただく言語聴覚士の方々にもご参加いただき、今日的な知識とスキルの再確認の場として、臨床現場での指導に活かしてもらいたいと考えています。結果的に、より自信を持って学生たちの指導にあたっていただくことができ、臨床実習の質が向上するので、本学にとっても大きなメリットがあります。



共同研究室

同じ目標をめざす仲間を大切に、ともに学び支えあう日々を通して、言語聴覚士に必要な素養をしっかりと身につけてください。励まし合い、高め合い、学び続ける仲間たちは、社会に出てからも自分を支えてくれる大切な存在になるでしょう。学びの先に患者さんの笑顔があることを忘れず、使命感を持って学んでほしいと思います。

言語聴覚学科の学びのステップ

基礎

スタートアップゼミ

支持科目

基礎科目

専門

展開科目

演習科目

実践

臨床実習

臨床 スキルアップセミナー

臨床実習の指導にあたる方を対象に、音声・言語・聴覚・認知の基本的な診察法や病態理解とリハビリテーションについて、また症例の説明の仕方などを紹介するセミナーを開講。基礎と臨床スキルを、参加者の方々と本学の教員が提供し合い、実践力の向上と臨床指導力の向上に活かします。

合格へ

試験対策

自ら考え、学修に取り組み、生涯使えるスキルを養う。

調べる・読む・書く・伝える・討論する、といった大学での学びの基礎を、実践を通して身につけます。資料を集め、出典を確かめてレポートを作成するなど、臨床実習での報告書作成にも役立つスキルを養います。



一体化した講義と演習で理論への理解を深める。

2回生から本格化する専門科目は、基本的に2コマ連続で開講。1コマ目は座学で専門知識・スキルを学び、2コマ目の演習で実践に取り組みます。実習室・演習室は学年別に用意されます。



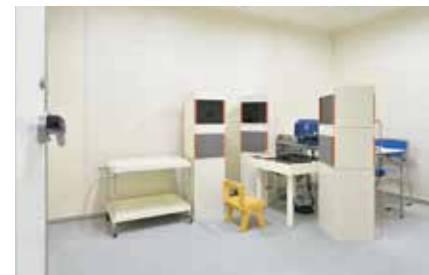
3ステップでの実践で問題解決能力を磨き抜く。

2～4回生の全学生が参加する臨床実習は、3ステップで実施します。医療の専門家や患者さんとの交流を通して問題解決の方法を実践できる力を養成。全国各地の病院などに実習先を設けていきます。

	2年 前期末	3年 後期	4年 前期
	見学実習 1週間	評価実習 4週間	総合実習 8週間
目標	患者の状態を記録し、病歴・障害歴を正しく記述できる力を養う。	患者の状態を整理して理解する。考えられる障害の仮説を立てて報告をする。	患者の状態と目標に合った治療を計画する。適切に訓練を実施する。
実習内容	患者の状態を観察して記録する。カルテや専門家から情報収集を行う。	観察(検査を含む)を実施する。所見を適切に記録する。疾患や個性を踏まえて解釈する。	患者の状態と目標を知る。目標に向けて治療を計画する。訓練課題を適切に実行する。
自己学習	観察所見で使う用語と定義、個別の状態(疾患や社会生活)についての基本的情報を理解する。	検査法の適応等、所見の解釈、病態生理、評価とその報告について学ぶ。	病状の経過と予後、目標設定、機能回復訓練と代償、環境調節、課題の選択と材料の準備を行う。

国家試験100%合格と、その先を見据えた対策を実施。

4回生には国家試験対策に特化した「言語聴覚障害学総合演習」を開講します。模擬試験やグループ学習で国家試験に向けた準備を集中的に実施。教員のきめ細かな支えのもと、合格率100%をめざします。



聴力検査室

一例一例、異なる原因。 日々直面する難問にどう対応するか。

ことばときこえ、飲み込みに関する異常は0歳児からお年寄りまで誰にでも起こる可能性があり、その原因もさまざま。何が障害を引き起こしているのか、すぐには原因や治療の答えが見つからないものも少なくありません。例えば「声がかすれる」という症状でも、声帯の麻痺、加齢による組織の硬さ、外傷といった原因が考えられ、その違いによって対処法も変わってきます。また、身体機能にはまったく異常がないにも関わらず、障害が発生するケースもあります。

容易に答えが見えない問題に対応する言

高い問題解決力を持つ言語聴覚士へ。